社会貢献活動を行う学生とキャリアの志向の関係について
～地域との繋がりとアイデンティティ形成の観点から～

青木　雄太（フィールド社会技術学分野）

【目的】

未だ実証研究がないボランティア活動に自ら従事する学生のキャリア形成、心理状況についてアイデンティティを中心とした心理的観点から団体に所属していない学生と比較し、ボランティア活動を行う学生の特徴を明らかにする。

【分析方法】

次の項目のデータをアンケート調査により集めた。

・属性調査（学年・性別・活動歴・活動頻度・始めた理由・続けている理由など）

・検討 1： 学生団体で活動をしている学生の心理を主にアイデンティティの側面から検討する

・検討 2： 学生団体で活動をすることが学生のキャリア志向にどのような影響を与えるか検討する

総集計数は団体 A（39 部）、団体 B（33 部）、街頭アンケートによって集めた一般学生（36 部）、全部で 108 のデータである。

そして集めたデータを多重共線性に注意しつつ重回帰分析を行った。

【分析結果】

団体で活動する学生に対して、既往の説を支持する結果が相次いだ。特に団体に所属することと達成動機、アイデンティティ確立が負の関係にあったことは（速水，2008）の説を後押しするようだった。また、団体の所属と「延期」が正の相関関係にあり、学生が主体的に意思決定を先延ばしにしており、学生団体に所属することと職業選択が分離していることが読み取れるなど、既存研究にはない結果も得ることができた。

一方で学生のキャリアの志向については重回帰分析による有意な結果は検出されず、得られたデータを元に推論を行うことが限界であった。

【結論】

既往の研究ではボランティア活動を行う学生に対して直接的にその心理状況を把握した論文は少なかった。調査対象が 2 団体であったため、より多くの団体からのサンプルを取れればより精度の高い調査ができると考えられるが、今後の学生が行うボランティア活動への研究において実態調査を行うことの必要性を示すことができたと考える。

参考文献

速水健朗（2008）「自分探しが止まらない」ソフトバンク新書.